

安全データシート

作成日 2011 年 3 月 25 日

改訂日 2026 年 7 月 1 日 (JIS Z 7252、7253 : 2025 対応改訂)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ベンゾトリアゾール(BTA)(1,2,3-Benzotriazole)
輸入会社名	アーク株式会社
住所	大阪府中央区安土町 3-5-13
電話番号	06-6563-7710
FAX 番号	06-6563-7720

2. 危険有害性の要約

GHS 分類	
分類実施基準	JIS Z 7252、JIS Z 7253 : 2025 (国連 GHS 第 9 版に整合) を使用して分類
物理化学的危険性	該当する区分なし
健康に対する有害性	急性毒性 (経口) : 区分 4 急性毒性 (吸入: 粉じん・ミスト) : 区分 4 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 区分 2 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分 2 (呼吸器) 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分 3 (麻酔作用)
環境に対する有害性	分類できない (データなし)
GHS ラベル要素	
絵表示又はシンボル	
注意喚起語	警告
危険有害性情報	H302 : 飲み込むと有害 H332 : 吸入すると有害 H319 : 強い眼刺激 H371 : 呼吸器の障害のおそれ H336 : 眠気やめまいのおそれ
注意書き	【安全対策】 取扱い後は手をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 取扱後は眼をよく洗うこと。

	適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 【応急措置】 飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。口をすすぐこと。 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。 ばく露したとき、または気分が悪い時：医師に連絡すること。 【保管】 施錠して保管すること。換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
--	--

3. 組成及び成分情報

化学物質	
化学名又は一般名	1,2,3-Benzotriazole
別名	アジミドベンゼン、(Azimidobenzene)、1, 2, 3 - トリアザインデン、(1,2,3-Triaza-indene)
分子式（分子量）	C ₆ H ₅ N ₃ (119.12)
化学特性（示性式又は構造式）	データなし
CAS 番号	95-14-7
官報公示整理番号	化審法：（5）-537（第五類・既存化学物質） 労働安全衛生法：名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 安衛則別表第2の1917（令和8年4月1日施行）
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし
濃度又は濃度範囲	≧99.00%

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合	気分が悪い時は医師に連絡すること。 口をすすぐこと。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入：データなし 皮膚：発赤、痛み。 眼：データなし 経口摂取：データなし
最も重要な兆候及び症状	データなし
応急措置をする者の保護	データなし
医師に対する特別注意事項	データなし

5. 火災時の措置

消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	データなし。
特有の危険有害性	加熱されると分解して、腐食性及び／又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 全ての着火源を取り除く。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
回収・中和	漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化方法・機材	水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
二次災害の防止策	プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	特別に技術的対策は必要としない。
局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	取扱い後は手をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

接触回避	適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
	データなし。
保管	
技術的対策	特別に技術的対策は必要としない。
保管条件	施錠して保管すること。 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
容器包装材料	データなし。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度（ばく露限界値、 生物学的ばく露指標）	日本産業衛生学会：未設定 ACGIH：未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	呼吸器の保護具：適切な呼吸器保護具を着用すること。 手の保護具：適切な保護手袋を着用すること。 眼の保護具：適切な眼の保護具を着用すること。 皮膚及び身体の保護具：適切な保護衣を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	固体
形状	針状、粉末、フレーク状又は顆粒状
色	オフホワイト
臭い	わずかに特徴的な臭いあり
pH	5.0～6.0
融点・凝固点	97～99.5℃
沸点、初留点及び沸騰範囲	350℃（1013hPa）
引火点	170℃（密閉式）
自然発火温度	データなし
燃焼性（固体、ガス）	適用なし
爆発範囲（上限・下限）	データなし
蒸気圧	0.04 mmHg

蒸気密度	データなし
蒸発速度（酢酸ブチル＝1）	適用なし
比重（密度）	1.36 g/cm ³
溶解度	データなし
オクタノール・水分配係数	1.44 (log Pow)
分解温度	データなし
粘度	適用なし
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率（導電率）	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉じん爆発の可能性がある。 加熱すると分解し、有毒なヒューム（アニリン、ニトロベンゼンなど）を生じる。 水溶液は弱酸である。 減圧蒸留すると爆発することがある。
避けるべき条件	加熱
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	有毒なヒューム（アニリン、ニトロベンゼンなど）

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラット LD50 値：560、600、965mg/kg bw (DFGMAK-Doc. Vol.2 (1991))。 (GHS 分類：区分 4)
経皮	ラット LD50 値：>10000mg/kg (HSDB (2003))。 (GHS 分類：区分に該当しない)
吸入（ガス）	GHS の定義における固体である。(GHS 分類：区分に該当しない)
吸入（蒸気）	データなし。(GHS 分類：分類できない)
吸入（粉じん・ミスト）	ラット LC50 値：1.9 mg/L/3h (=1.43 mg/L/4h) (PATTY (5th, 2001))。急性毒性値 (1.9mg/L) が常温での飽和蒸気濃度 (0.000158 mg/L) より高いことよりミスト／粉じんの基準値を適用した。(GHS 分類：区分 4)
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた試験において刺激性なし (DFGMAK-Doc. Vol.2 (1991))。他の試験で紅斑、浮腫共に観察した時間全てでスコア：0 (Keml-Riskline (2000))。 (GHS 分類：区分に該当しない)

眼に対する重篤な損傷／刺激性	ウサギを用いた試験において角膜混濁、結膜、虹彩の発赤が認められた（DFGMAK-Doc. Vol.2 (1991)）。他の試験で刺激性スコア：81.0、26 日後のスコア：31（この値は砂による機械的刺激）（HSDB (2003)）。（GHS 分類：区分 2）
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：データなし。（GHS 分類：分類できない） 皮膚感作性：モルモットマキシマイゼーション試験で弱い陽性(1/20)（Keml-Riskline (2000)）、別の試験で陰性（DFGMAK-Doc. Vol.2 (1991)）。工業品では弱い陽性(3/20)との報告もあり職業ばく露による感作性が示唆される。（GHS 分類：データ不足で分類できない）
生殖細胞変異原性	経口投与マウス骨髄小核試験（OECD ガイドライン準拠）で陰性（Keml-Riskline (2000)）。in vitro 試験ではエームス試験、CHO 細胞染色体異常試験で陽性（NTP DB）。（GHS 分類：区分に該当しない）
発がん性	マウス 104 週間混餌投与試験、ラット 78 週間混餌投与試験の結果から、投与による明確な影響とは言えない（NTP TR 88 (1978)、DFGMAK-Doc. Vol.2 (1991)）。データ不足のため分類できない。（GHS 分類：データ不足で分類できない）
生殖毒性	ラット雌雄 42 日間経口投与試験で性機能及び生殖能に対する悪影響は認められなかった（経産省生殖試験 (2007)）。仔の発生への影響については情報不十分。（GHS 分類：データ不足で分類できない）
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	ラット吸入毒性試験（LC50: 1.43 mg/L/4h）で深い腹式呼吸、喘ぎ、肺の重篤な出血が認められた（HSDB (2003)）。経口投与試験で正向反射抑制、痛覚欠除が認められた（HSDB (2003)）。（GHS 分類：区分 2（呼吸器）、区分 3（麻酔作用））
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	ラット 8 週間混餌投与試験で体重増加量減少のみ（DFGMAK-Doc. Vol.2 (1991)）。ラット 42 日間経口投与試験で血液学的検査異常はあったが病理組織学的異常はなし（経産省生殖試験 (2007)）。他投与経路の報告なく分類できない。
誤えん有害性	データなし。（GHS 分類：分類できない）

1 2．環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期（急性）	データなし。（GHS 分類：分類できない）
水生環境有害性 長期（慢性）	データなし。（GHS 分類：分類できない）
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。（GHS 分類：分類できない）

1 3．廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4．輸送上の注意

国連番号	UN3077 環境有害物質、固体、類別不能物質（Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s.） 危険物クラス：9（その他の有害物質） 包装等級：III 海洋汚染物質：該当
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。

1 5．適用法令

（1）化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）	
官報公示整理番号／類別	（5）-537 第五類（既存化学物質）
官報公示名称	1， 2， 3－ベンゾトリアゾール
（2）労働安全衛生法（安衛法）	
名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物	該当（令和 8 年 4 月 1 日施行）
政令番号	労働安全衛生規則別表第 2 の 1917
政令名称	1 H－ベンゾ [d] [1， 2， 3] トリアゾール
表示の対象となる範囲（重量％）	≧1％
通知の対象となる範囲（重量％）	≧1％
（3）食品衛生法	
食品用器具・容器包装のポジティブリスト	別表第 1 第 2 表（添加剤）（2025 年 6 月 1 日以降） 通し番号：724 物質名：1， 2， 3－ベンゾトリアゾール 材質区分別使用制限（％）：区分 1；0.50、区分 2；0.10、区分 3；0.50、区分 4；－、区分 5（150℃以上）；0.50、区分 5（150℃未満）；0.50 ※食品用器具・容器包装への使用がある場合に適用。用途に応じて要確認。
（4）消防法	
危険物該当性	本データからは該当区分を特定できない（データなし）。事業者において実測値等に基づき要確認。

※海外の規制情報は「1 6．その他の情報」を参照。

1 6．その他の情報

参考文献	各データ毎に記載した。 NITE 化学物質総合情報提供システム（CHRIP）検索結果（検索日：2026 年 7 月 1 日）
------	---

	英文 SDS (Kanghua Chemical Co., Ltd. 発行、Revision Date : 2026 年 1 月 5 日)
準拠規格	本 SDS は JIS Z 7253 : 2025 に準拠して作成した。 GHS 分類は JIS Z 7252 : 2025 (国連 GHS 第 9 版に整合) に準拠している。
GHS 分類の更新状況	政府 (NITE) による GHS 分類結果は平成 22 年度 (2010 年度) 公表分から更新されていない。本 SDS の分類は、NITE 統合版政府による GHS 分類結果 (2010 年度公表、2026 年 7 月時点で最新) と同一であり、内容の変更はない。
海外規制情報 (参考)	EU : EC インベントリ EC 番号 202-394-1 / CLP 調和分類 Index 番号 613-350-00-X 米国 TSCA : TSCA インベントリ収載 (ACTIVE) 韓国 K-REACH : 既存化学物質 (KE-02732) 台湾 TCCSCA/OSHA : 既存化学物質収載 ASEAN : 日 ASEAN 化学物質管理データベース (AJCSD) に情報あり
免責事項	本 SDS に記載されている情報は、現時点で入手できる情報に基づき作成したものです。本データは本製品の安全性に関するものであり、品質保証を意図するものではありません。異常な条件下での使用または特殊用途についての保証はいたしかねます。